

楽しく、気持ちよくテニスをするために

2022年11月 JLTf兵庫 審判部



スポーツマンシップに則って、正々堂々と試合に臨みましょう！！

セルフジャッジの試合では判定を選手自身が行います。判定する審判はいません
相手、ルール、審判をリスペクトし、フェアな態度でプレーすることが大切です
選手一人ひとりのスポーツマンシップが試されています



セルフジャッジは
あなたの人格が試されています！



ルールの変更 2022年より

1 服装について ※JTA服装規定の図参照

- ★マスクのロゴの大きさ 男子26cm² 女子19.5cm²の製造業者ロゴ 1個
- ★女子のレギンスのみの着用が可能になった（重ね着と単独ではロゴの大きさが異なる）
- ★女子の帽子的製造者ロゴは前という規定がなくなった

2 スマートウォッチは電源を切った状態でも着用できません（電子機器の試合中の使用の禁止）

3 ノーアドの試合で

ノーアドでプレーすべきところをレシーバーチョイスなしでデュースコートから1ポイントプレーして
間違いに気が付いたときはその結果を成立させ、ゲームが終了します



ミスジャッジをしたら ※セルフジャッジの5原則参照

思わずミスジャッジをしたら、正直に認めすぐに訂正しましょう

その処置として、1回目はレット、ポイントのやり直し 2回目以降は失点

※ただし、ウイニングショット、エースショットはポイントが成立します

ペアで判定が食い違ったら、失点です

- ①A:アウト B:入っていました⇒食い違い（ただし、Aも入っていたとすぐに認めればレット）
- ②A&B:アウト B:入っていました⇒レット（ただし、Aがアウトを主張⇒食い違い）
- ③A:アウト あっ！入っていました⇒レット（ただし、Bがアウトを主張⇒食い違い）



スタートオブマッチ（1-5-1ウォーミングアップルール） ※ルールブック2021 P134 参照

両選手がコートに到着後、決められた時間で試合を開始するルールを守っていますか？

★コートに入ってから着替える、テーピングする⇒相手を待たせないでテニスをし、試合を開始しましょう



隣のコートからボールが入ってきたら（外からの妨害）

妨害が起こったらすぐにレットのコール（両選手、チームがコールできます）

ボールを打った後にレットのコールがあり、そのボールがアウト、ネットした場合は打った選手の失点

セカンドサーブのトスを上げた時にレットのコールがあったら、ファーストサーブ

（トスを上げる前ならボールを取り除いてセカンドサーブ）

妨害が起こったときに誰もレットをコールしなければ、両選手、チームが妨害されていないことになる



持ち物を落としたら（選手自身が起こす妨害）

落とした選手はレットをかけられません。相手選手がレットのコールをします

1回目はレット ポイントのやり直し、2回目以降は失点（ダブルス時はペアで数える）



試合中は紛らわしい声、動作で相手を妨害をしない（選手自身が起こす妨害）



★ 相手がスマッシュを打とうとしているとき「ケア～！」「キャ～、やめて～」⇒ ×

★ 相手がレシーブするとき「サイドケア～！」「ロブケア～」⇒ ×

★ ラリー中、決まったと思い「カモン！！」「よし！！」⇒ ×

試合中は判定時に必要なコールのみ（アウト、フォールト、レット、ノットアップ、コレクションなど）

声や動作で相手のプレーを妨害しない。審判の判断で失点になることがあります

ダブルス時 ペアへの声掛けは相手の気にならない程度に！



フットフォールトはしない！

普段から気を付け、試合でコールされないようにしましょう

フェアプレイはスポーツの基本です！



ポイント間、エンドチェンジ、セットブレイクの時間を守る

ダブルス時 ペアとの話し合いやノーアドのレシーバーチョイスに時間を取っていませんか？

審判に注意されることがないように自主的に時間を守りましょう

注意を受けた後も時間を守ることができなかつたらペナルティの対象になります

